



武茂城周辺の歴史めぐり

唐御所横穴墓 (国指定史跡)

和見地区から北向田地区にかけて、横穴墓が分布しています。その中でも残りも良く、精巧に築かれている代表的なものが「唐御所」と呼ばれる横穴墓です。

内部は古墳の横穴式石室と同様に、玄室や羨道などが施され、天井には棟木が彫られ、左右に切妻の屋根をかたどった切妻式となっています。築造年代は6世紀後半から7世紀初頭と考えられています。周辺には、遠見穴、姫穴と呼ばれる横穴墓があります。



健武山神社

806年創建と伝わる健武山(たけむやま)神社は、下野国式内社11社のうちのひとつです。砂金産出の地として、朝廷から従五位下を賜ったことが『続日本後紀』にも書かれている歴史深い神社です。中世には武茂氏、江戸時代には歴代水戸藩主から寄進を受けるなど崇敬されました。



那珂川町は、日本ではじめて「金」が採れた場所?!

東大寺の記録によると、747年に那珂川町で「金」が採れ、東大寺の大仏鑄造のために、奈良へ運ばれたといわれます。これは、日本初の産金の記録になります。那珂川町の産金は、「那須のゆりがね」として、和歌にも詠まれ、遠く都にもその名が知られていました。健武山神社は、目の前の武茂川で金が発見されたことを物語り、その由緒からも、朝廷との深い繋がりを見取ることができます。

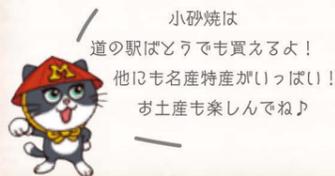
特産品

小砂焼 - Koisagoyaki -



小砂焼は、天保元年(1830年)に水戸藩主徳川斉昭の命によって、小砂地区で良質の陶土が見つかったことがきっかけで作陶が始まったとされています。これは那珂湊反射炉を建造するためのレンガ用の陶土を探していたともいわれています。

小砂焼は、金結晶釉とよばれる金色に輝く色が特徴で、素朴でありながら優雅な雰囲気を醸し出しています。他にも、バラエティ豊かな素敵な陶器が作られています。



執筆監修

歴愛&山城ナビゲーター
山城ガールむつみ

那珂川町ふるさと大使

歴史やお城をテーマにしたイベントや講座を多数手がける。地域活性のために埋もれている歴史の掘り起こしなど、歴史コンサルとしても活動。学校授業を通して、郷土の歴史の大切さを伝える取り組みも行っている。 <https://www.rekitoki.com/>

那珂川町は那珂川と八溝山地に囲まれた自然豊かな土地です。町に点在する縄文遺跡、古墳、横穴墓、寺社、城などから、那珂川町の歴史の深さを感じることができます。ぜひ、那珂川町で歴史ロマンを楽しんで下さい。



那珂川町の歴史を学ぶには
欠かせない!

那珂川町なす風土記の丘資料館

常設展示では、「よみがえる那須古代文化の軌跡」をテーマに、那珂川町のみならず、那須地域の古代文化を深く知り、学ぶことができます。古墳の復元模型展示や、わかりやすい説明パネルなどは必見です!

また、なす風土記の丘資料館の付近には、那須郡の役所「那須官衙遺跡」があり、古代において那須地域の中心だった場所です。資料館の見学と合わせて、周辺史跡の歴史散策をお楽しみ下さい。



開館時間 9:30~17:00(入館は16:30まで)
入館料 一般 100円(80円) 高大生 50円(40円)
中学生以下 無料 ※()は20名以上の団体料金
休館日 月曜日(祝日は開館)
祝日の翌日(祝日が土・日曜日の場合は開館)
☎0287-96-3366 FAX 0287-96-3340



企画編集

那珂川町地域おこし協力隊 吉田 夏希

那珂川町には史跡がたくさんあります。この武茂城パンフレットを片手に町を巡り、那珂川町の歴史、魅力をどんどん深掘りしていただきたいです。

協力 那珂川町教育委員会

那珂川町ふるさと大使
山城ガールむつみがご紹介!



©山城ガールむつみ

武茂城に

-MUMO-

出陣!



武茂城想像絵図

武茂城 (県指定史跡)

武茂城は永仁年間(1288-1299)に、武茂泰宗によって築かれたと伝わります。城山の南側には、武茂川が流れ、並行するように街道が通ることから、水陸交通の要所だったと考えられます。

武茂城は、麓の乾徳寺西側の丘陵上に、主として使われたと思われる本城があり、乾徳寺の谷を挟んだ東側丘陵上と、本城の西側の丘陵上にも城郭遺構が残っています。

現在、静神社参道から登る本城エリアは、とくに遺構が良好に残り、土塁、空堀、虎口、曲輪、土塁など、戦国時代の城の姿を楽しむことができます。戦国時代にはおもに武茂氏の居城として使われた武茂城は、那須氏との戦いの舞台になったこともありました。

現在的那珂川町総合体育館周辺には「根古屋」の地名が残ることから、家臣団の屋敷地である根古屋が形成されていたとも考えられます。

また、武茂城の城下を通る街道には、「曲之手」といわれるクランク状に道が曲がる箇所が現在も残っています。この曲之手は、戦国時代に、武茂城の城下防衛のために軍事的な意図をもって造られた可能性があり、戦国時代の様相を想像するのが楽しい城下の景色になっています。

江戸時代に発展した馬頭の町並みや街道筋は、さかのぼると武茂城が地域の拠点として使われていた戦国時代に端を発するとも考えられ、このことから武茂城は、地域の歴史を紐解くには欠かせない城といえます。



◀ダイナミックな空堀
土を掘って敵を防いだ「堀」、土を盛った「土塁」、城の出入り口「虎口」など、戦国時代の城の姿が現地にはしっかりと残っています！
建物はなくとも、十分歴史を感じられます！



※この地図はカシミール3Dスーパー地形を元に作成しています。

周辺施設

那珂川町郷土資料館

武茂城の麓にあり、武茂城のジオラマや鳥瞰図、武茂城に関する中世文書などが展示されています。また、馬頭地区に関する近代産業などの展示もあります。

開館時間 9:30~17:00(入館は16:30まで)
入館料 無料 休館日 月曜日(祝日の場合は開館)・祝日の翌日
☎/FAX 0287-92-1103



乾徳寺

乾徳寺は寛正3年(1462年)に創建されたと伝わる曹洞宗寺院です。武茂氏の菩提寺とされ、境内には武茂一族の墓所があります。

また、山門は武茂城の大手門と伝わることから、武茂城と密接に関わる寺であることが偲ばれます。

山門には、武茂氏の家紋「左三ツ巴」が刻まれています。

馬頭院

馬頭院は、健保2年(1214年)に醍醐寺の座主光賢和尚によって創建されたと伝わります。創建当初、本尊だった地藏菩薩は藤原様式の残る貴重な仏像で、鎌倉時代前期と推定されています。現在の本尊は、14世紀初頭に武茂好綱により寄進されたと伝わる馬頭観音です。

元禄5年(1692年)に徳川光圀が当寺を訪れたとき、本尊が馬頭観音菩薩に、そして、寺名も「武茂山十輪寺馬頭院」に改められたといえます。また、徳川光圀がその際に記念樹として常陸国から栗の木(推定樹齢300年)を移植したと伝わります。この木は約15日の間隔を空けて3度開花することから「三度栗」と呼ばれ、県の天然記念物に指定されています。



武茂氏ってどんな一族？

武茂氏は下野の名族宇都宮氏の分家にあたります。宇都宮貞綱の弟泰宗が武茂の地を領し、武茂氏を名乗ったといえます。泰宗は、元寇の際に、兄貞綱と一緒に九州に赴き、敵軍と戦い活躍しました。

その後も武茂氏は、宇都宮一族の分家の中でも重要な家柄として存続しました。宇都宮氏の当主が途絶えたときには、武茂氏から宇都宮当主が出されたほどです。

しかし、武茂氏は戦国時代の終わり頃には、下野国に進出してきた常陸佐竹氏に属すようになり、那珂川を挟んだ烏山城を本拠とする那須氏と抗争を繰り返しました。

その後、佐竹氏の家臣団として常陸国大賀村に移封となり、さらに佐竹氏が秋田へ移ると一緒に秋田へ移住したとされています。



◀武茂城下に建つ武茂泰宗の銅像

武茂泰宗は、武家歌人として鎌倉や京都で活躍しました。泰宗の歌は勅撰和歌集に15首が選ばれています。



▲武茂氏の墓所(乾徳寺)

武茂氏の菩提寺乾徳寺には、武茂一族の供養塔が建ち並んでいます。

城は地域を語る大事な鍵です。文化、経済、宗教、政治、軍事などが凝縮された地域の軸だと思います。

ぜひ、城を通して歴史を体感して下さい。歴史を知って、感じて、土地の魅力を再発見してもらえれば嬉しいです！



©山城ガールむつみ